

堀池遺跡 II

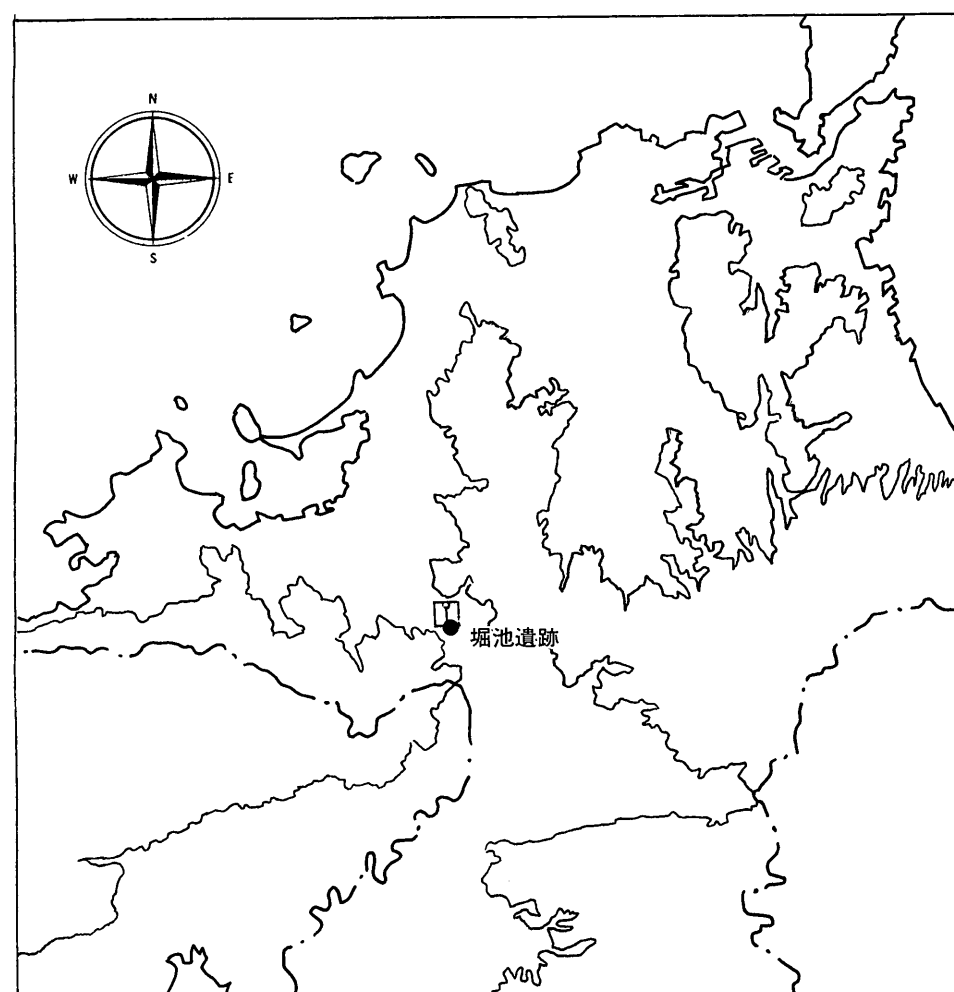
筑紫野市文化財調査報告書

第72集

2002

筑紫野市教育委員会

ほり いけ い せき
堀 池 遺 跡 II



例 言

1. 本書は共同住宅建築に伴い筑紫野市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. この調査は谷康尚氏の委託を受け筑紫野市教育委員会が実施した。
3. 調査対象地は筑紫野市大字二日市826番1、826番2の1,225㎡である。
4. 現地での調査にかかる実測および写真撮影は仁田坂聡が行った。
5. 出土遺物の実測は奥村俊久と（株）埋蔵文化財サポートシステムが行った。
6. 製図は遺構配置図を（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託し、その外を（有）文化財テクノアシストが行った。
7. 出土遺物の写真撮影はフォトハウスOkaが行った。
8. 発掘時の遺構番号は遺構単体で完結すると考えられる遺構には、頭にSを冠し番号を付け、単体で完結しないと考えられるピット等の遺構は頭にPを冠し番号を付した。遺物の付番も同様とした。
9. 報告に当たっては遺構の性格付けを行い、竪穴式住居跡をSI、墳墓をST、土壙をSK、溝をSDの略号を与え、その後に現場で付した番号をそのまま付した。ピット等についてはそのまま用いた。さらに、これらの略号の前には第2次調査を示す2を冠した。
10. 本書の執筆、編集は奥村が行った。

目 次

I. 調査に至る経過	1
II. 位置と環境	1
III. 調査の内容	4
1. 竪穴式住居跡	4
2. 墳墓	7
3. 土壌	8
4. 溝	8
5. ピット	10
IV. まとめ	11

挿 図 目 次

第 1 図 調査地点周辺遺跡分布図（縮尺 1/25,000）	2
第 2 図 堀池遺跡周辺地形図（縮尺 1/2,500）	3
第 3 図 2SI003実測図（縮尺 1/40）	5
第 4 図 2SI003出土遺物実測図（縮尺 1/3）	6
第 5 図 2ST004実測図（縮尺 1/20）	7
第 6 図 2ST004出土遺物実測図（縮尺 1/3）	8
第 7 図 2SK実測図（縮尺 1/40）	8
第 8 図 SK出土実測図（縮尺 1/3）	8
第 9 図 2SD001・002断面図（縮尺 1/40）	9
第10図 2SD001出土遺物実測図（縮尺 1/3）	9
第11図 2SD006・010断面図（縮尺 1/40）	10
第12図 ピット出土遺物実測図（縮尺 1/3）	11

図 版 目 次

図版 1 調査区全景	
図版 2 2SI003・2ST004・2SD002	
図版 3 出土遺物	
図版 4 出土遺物	

付 図

付図 堀池遺跡第 1 次・第 2 次発掘調査遺構配置図（縮尺 1/200）	1 葉
---	-----

I. 調査に至る経過

平成2年2月5日付けで、谷 康尚氏から筑紫野市教育委員会に筑紫野市大字二日市826番1・2、3,913.96㎡の文化財有無についての照会があった。照会はアパート及び一戸建て住宅の計画であり、教育委員会は同年2月16日に確認調査を実施した。その結果、弥生時代と推定される竪穴式住居跡や大宰府条坊に関係すると考えられる溝状遺構が検出された。この結果は平成2年2月21日付けで回答を行った。この回答後、谷氏から文化財保護法第57条の2第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出がなされ、教育委員会は7月12日付けで、福岡県教育委員会に進達した。平成2年8月22日、工事着手前に発掘調査を実施する旨の通知が教育委員会に到達し、直ちに谷氏へ通知した。谷氏は教育委員会に発掘調査の依頼を行った。しかし、教育委員会は発掘調査を受託する事が困難な状況にあった。その後、数度の協議を行い、工事予定地のうち緊急度が高い南半分を市教育委員会で発掘調査する事となった。平成2年9月18日付けで埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、平成2年10月16日から同年12月20日まで発掘調査を実施した（第1次調査）。その後、残っていた北半部の調査を実施することとなり、平成4年8月7日付けで埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し調査を実施した（第2次調査）。

発掘期間

平成4年9月8日～平成4年10月14日

調査組織

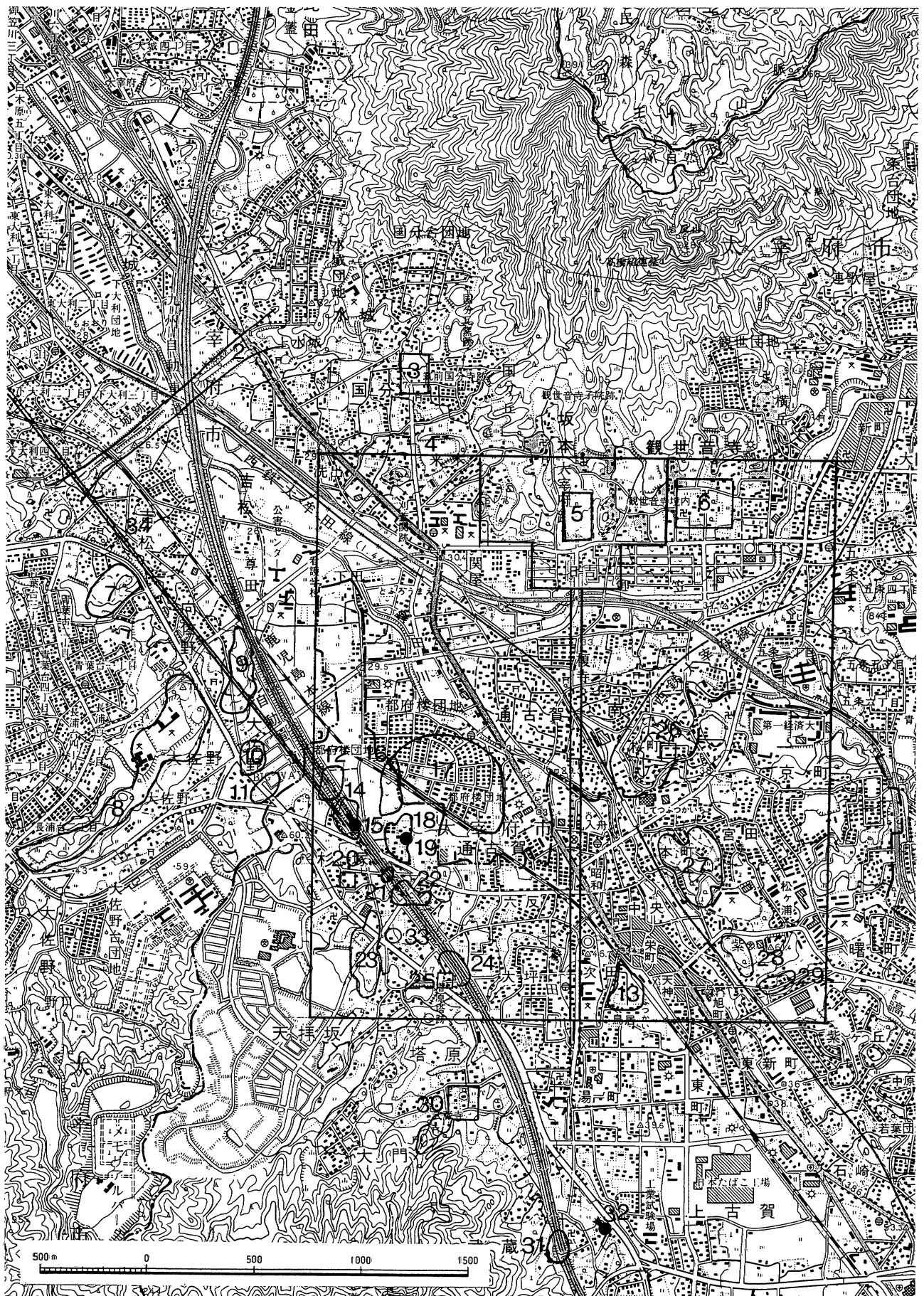
庶 務	筑紫野市教育委員会	教育長	永 渕 正 敏
	筑紫野市教育委員会	教育部 部長	岡 部 隆太郎
		社会教育課 課長	竹 田 征 治
		社会教育課 文化財担当係長	山 野 洋 一
発掘調査	筑紫野市教育委員会	教育部 社会教育課 文化財担当嘱託	仁 田 坂 聡

(現 唐津市教育委員会)

II. 位置と環境

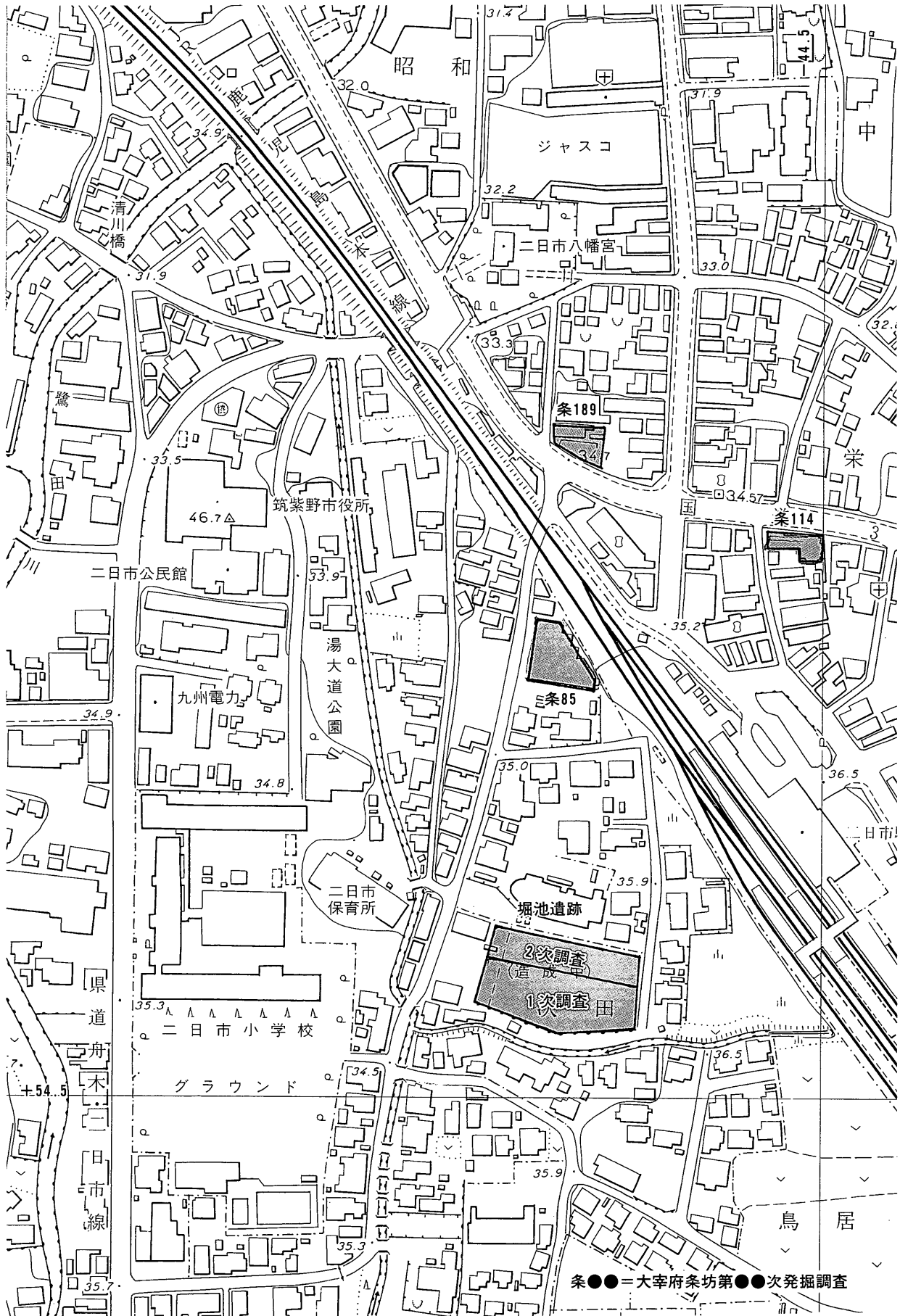
筑紫野市は福岡市と久留米市のほぼ中間に位置する。市の地形は三群山塊と背振山塊、その間に開けた地溝帯状の二日市低地帯、及び山地から二日市低地帯方向に流れる河川によって形成された河成低地などから成る。約9万年前の阿蘇山の噴火に伴うAso4火砕流は、筑紫野市の低地部にも押し寄せ、一帯を埋め尽くした。その後の河川等の浸食作用により市の各所に火砕流堆積物からなる丘陵や台地状地形が形作られ、市内に所在する遺跡の多くは、これらの上に所在する。低地帯のうち市域北部は博多湾へ注ぐ御笠川水系の鷺田川流域、その外の地域は有明海に注ぐ筑後川水系の宝満川流域となる。この低地帯には博多湾側と有明海側の流域界があり、谷中分水界は、現在は宝満川の支流となっている山口川の流域変更によって形成されたものである。

堀池遺跡は筑紫野市の北部、鷺田川の東側に位置するAso4火砕流台地上に所在し、弥生時代後



第1図 調査地点周辺遺跡分布図（縮尺1/25,000）

1. 大野城跡 2. 水城跡 3. 筑前国分寺跡 4. 大宰府跡 5. 大宰府政庁跡 6. 観世音寺 7. 篠振遺跡 8. 宮ノ本遺跡
9. 前田遺跡 10. フケ遺跡 11. 尾崎遺跡 12. 井ノ尻遺跡 13. 堀池遺跡 14. 剣塚遺跡 15. 剣塚1号墳 16. 大坪遺跡
17. 市ノ上遺跡 18. 大門遺跡 19. 埴安神社古墳 20. 杉塚廃寺 21. 前田遺跡 22. 唐人塚遺跡 23. 脇田遺跡 24. 塔原遺跡
25. 塔原廃寺 26. 般若寺跡 27. 峯畑遺跡 28. 通り浦遺跡 29. 五穀神遺跡 30. 武蔵寺跡 31. 八隈古墳群 32. 原口古墳
33. 脇田古墳群 34. 水城西門ルート官道



第2図 堀池遺跡周辺地形図 (縮尺 1/2,500)

期から古墳時代前期の生活関連遺構を主体とする遺跡である。しかし、北部は推定大宰府条坊域内となるため、大宰府跡に関連する可能性をもつ遺構も多い。1次調査では南北に走る溝のほか、時期は明確でないが掘立柱建物が3棟検出された^{註1}。また、今回調査区から100m余り北側は平成元年に大宰府条坊跡第85次調査として発掘調査し、古墳時代初期の住居跡、また南北に走る溝やピット列が検出された。一連の調査から遺跡の範囲は、第1次調査地点が南縁にあたる事が確認されたが、近世には北側に日田街道二日市宿が置かれ、遺跡の西部は二日市宿から二日市温泉へ向かう旧道が通る。近代には九州鉄道二日市駅を中心とした市街化が進んだ。このため旧地形はかなり失われているが、大宰府条坊跡第189次調査地点では弥生時代最終末期の土器が多量に投棄された土壌が検出され、この位置までは遺跡が延びると思われる。堀池遺跡から北側には大宰府条坊跡関連の遺跡が多く見られるが、南側は東西に望む丘陵部や1.5km南のAso4火砕流台地上に弥生時代から古墳時代の遺跡がみられるのみで、平地部は湿地となっていたようである。

註

註1 筑紫野市教育委員会 1997 堀池遺跡 筑紫野市文化財調査報告書第47集

註2 筑紫野市教育委員会 1991 大宰府条坊跡第85次発掘調査 筑紫野市文化財調査報告第47集

III. 調査の内容

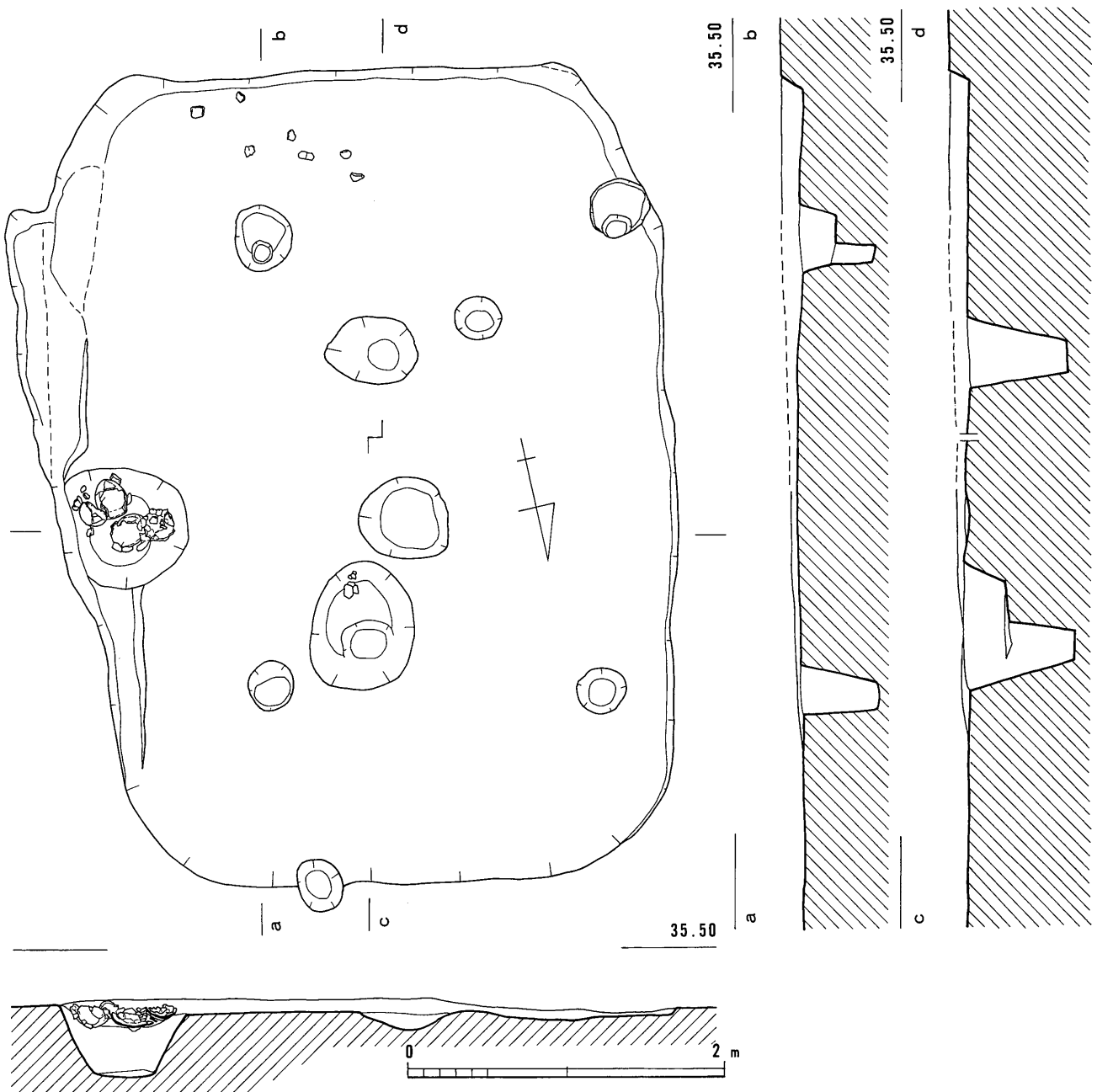
1. 竪穴式住居跡

(1) 2SI003 (第3図 図版2-1)

調査区の西寄りで検出した隅丸方形の平面プランを呈す竪穴式住居跡である。規模は5.1m×3.9mを測る。壁高は最もよく残っている南側で11cmを測り、北側はプランのみが確認できる状況で残りは悪い。主柱穴は2本で、中央、北側主柱穴寄りに炉跡状の浅いピットが確認された。東側の壁際には径70cm余り、深さ39cmの土壌が設けられ、その上部から投棄されたと思われる土器が多く出土した。この土壌から120cm程の所まで壁際に沿って壁溝が認められた。

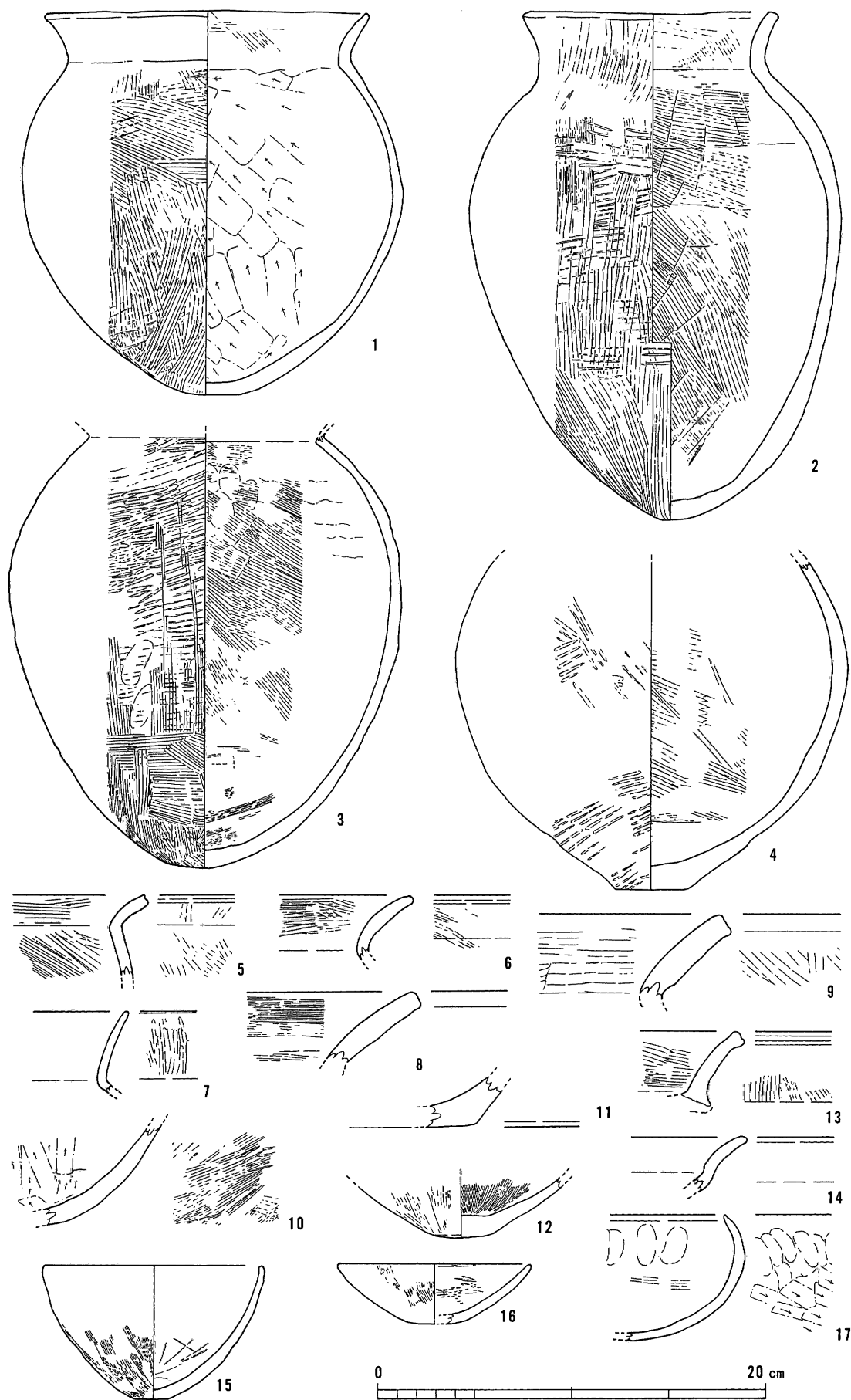
出土遺物 (第4図 図版3)

1～4は東側壁際の土壌上部から出土したものである。1は胴部の一部を欠失する甕である。口径15.5～16.7cm、胴部最大径19.6cm、器高19.75cmを測る。色調はにぶい黄橙色を呈すが、煤が底部から口縁部に至る部分まで付着し、内面胴部下半の器面には焦げた痕がみられる。口縁部は僅かに外反気味に外傾し、ほぼ胴部中位に最大径をもつ。底部は緩やかに窄まり、そのまま収まる。胴部外面はタタキ整形され、その後に刷毛目で調整される。また内面はヘラ削りが頸部屈曲部の位置まで行われるが、器壁は4mm前後とやや厚い。口縁部は刷毛目調整の後、ヨコナデで仕上げられる。2は口縁部から胴部上半の1/4程度が欠失する甕である。口径13.2cm、胴部最大径19.1cm、器高26.1cmを測り、色調は明赤褐色を呈す。口縁部はやや外反気味に僅かに外傾し、胴部以下は砲弾形を呈す。胴部最大径は中位やや上方にもち、底部は尖り気味に収まる。胴部から底部にかけてはタタキ成形され、その上を粗く縦方向の刷毛目で調整するが、胴部下位から底部にかけては密に施し、タタキの痕を消す。胴部内面は比較的丁寧に刷毛目が施される。口縁部は外面が縦方向、内面が横



第3図 2SI003実測図（縮尺1/40）

方向の刷毛目を施したのちヨコナデする。内面底部には器面が焦げた痕が残る。3は口縁部と胴部の1/3を欠失する甕である。胴部最大径20.2cm、残存高22.4cmを測る。胴部は倒卵形を呈し、底部は丸底である。タタキ成形され、外面は中位から上位にかけ縦方向の刷毛目を粗く施し、さらに胴部下位から底部にかけては丁寧な刷毛目で、タタキの痕を消す。内面は丁寧な刷毛目が施される。底部の器面には焦げた痕が残る。4は底部が完存するものの、ほかは胴部が1/3ほどしか残っていない甕である。胴部最大復元径20.15cm、残存高16.9cmを測り、焼成は良好である。胴部は球形に近く、底部は径3.65cmほどの平底をもつ。外面にはタタキ痕が残るが、ミガキもしくは磨滅のため胴部の痕跡は少ない。内面には刷毛目が認められるが、こちらも磨滅のため部分的に消失する。また、内面底部から胴部下位に移行する部位の器面に焦げた痕が残る。5～9はいずれも甕の口縁



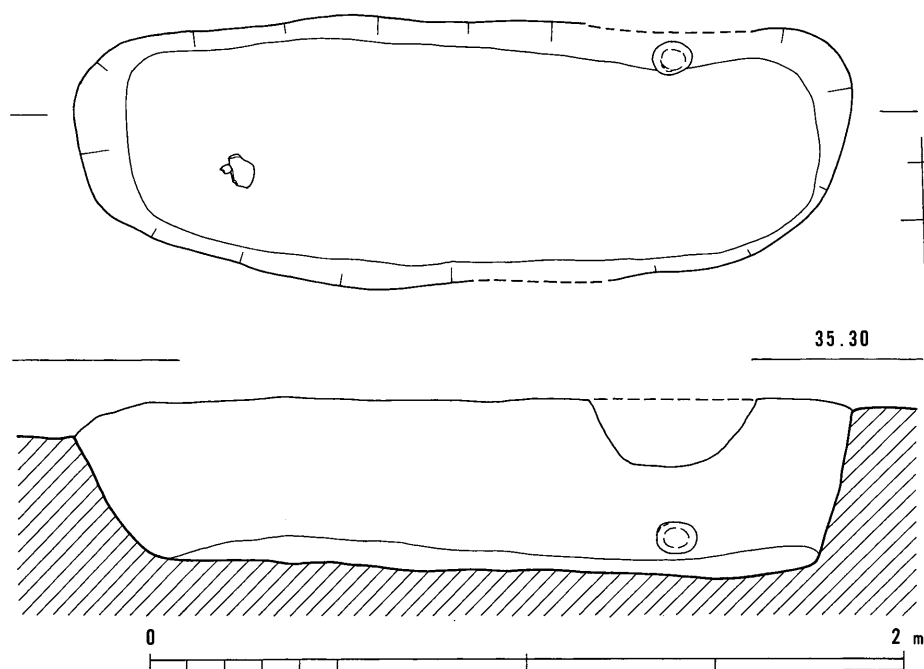
第4図 2SI003出土遺物実測図（縮尺1/3）

部の小片である。5は「く」字状を呈し、端部は浅い凹状を呈す。6はやや外反気味の口縁で、深く外形するが、もう少し立つかもしれない。7は薄手のもので、比較的直線的に外傾する。8・9は大型の甕のものと思われる。器壁は8で1.2cm、9で1.4cmを測る。10は底部の破片で、もう少し立つかもしれない。内面はヘラケズリされ、外面はタタキ成形後、刷毛目が密に施される。11は平底を呈す小片で、内外面ともナデが認められた。12は径2.9cmを測り、僅かに凸レンズ状を呈す底部をもつ破片である。色調は外面が灰黄褐色、内面が黒褐色を呈す。内外面ともに丁寧な刷毛目が認められる。13は二重口縁壺の口縁部と思われ、色調は橙色を呈す。外反して貼付され、端部は僅かに肥厚し、凹部をつくる。14は高坏の体部で、色調は浅黄橙色を呈す。体部は外反し、傾斜して貼付され、広い底部に続くものと思われる。15・16は鉢である。15は口縁部端部の一部と体部から底部の1/3弱が残存する。復元口径11.3cm、器高6.9cmを測り、色調は灰黄褐色～にぶい橙色を呈す。口縁部から体部にかけて緩やかな丸みをもち、僅かに平底を残す底部に至る。外面は刷毛目調整され、内面はナデで仕上げられるが、体部下位に工具痕が残る。16は1/3弱が残存する。復元口径10cm、器高3.1cmを測り、色調は灰白色を呈す。口縁部が僅かに立ち上がり気味となるが、体部は直線的に下り僅かな平坦部を持つ底部に緩やかに至る。外面は刷毛目調整が残り、内面は横方向にヘラミガキが施される。17も鉢の小片である。体部は内湾し、丸底の底部に至る。体部上半から口縁部はヨコナデで仕上げられるが、体部には浅い指頭痕が多くみられる。外面体部下半から底部にかけてはヘラケズリで仕上げられる。

2. 墳 墓

(1) 2ST004 (第5図 図版2-2)

主軸をN-89°-Wにとり、規模は検出面で長さ207cm、幅73cmを測る。床面まで約45cmを測り、床面の規模は、長さ183cm、幅56cm前後で、隅丸長方形プランを呈す。床面には18が東側床面中ほ

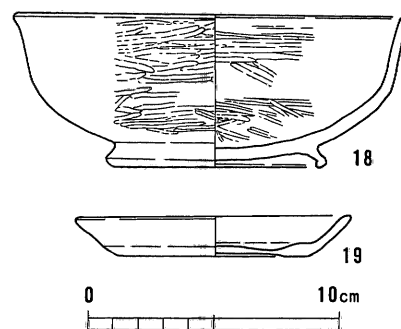


第5図 2ST004実測図 (縮尺 1/20)

どに、19が南壁際に埋置されていた。

出土遺物（第6図 図版3）

18は黒色土器B類の椀である。口径15.7cm、器高6.1cm、高台径8.75cmを測る。口縁部は僅かに外反する。体部下半は押し出しにより成形され、中位にあまい屈曲部が認められる。高台は低いが、外側に開き、端部が内側に折り曲がる。体部から口縁部の器面は内外面とも全面に比較的丁寧なミガキが認められる。19は土師器の坏aで、口径11cm、器高1.6cm、底径7.6cmを測る。体部は直線的に外傾し、底部はへら切り離しである。



第6図 2ST004出土遺物
実測図（縮尺1/3）

3. 土 壙

(1) 2SK005（第7図）

主軸をN-80°-Wにとり、長さ205cm、幅120cmほどの略方形プランを呈す。床面まで10cmほどで残りは悪いが、床面はほぼ平坦な形状を呈す。

出土遺物（第8図）

20は1/3ほどが残る土師器の坏aである。復元口径12.6cm、器高3.2cm、復元底径7.9cmを測る。体部はほぼ直線的に外傾し、底部はへら切り離しである。

(2) 2SK008（第7図）

主軸をN-3.5°-Eにとり、長さ322cm、幅110cmほどの不整楕円形プランを呈す。床面まで10cmほどで、残りが悪い。

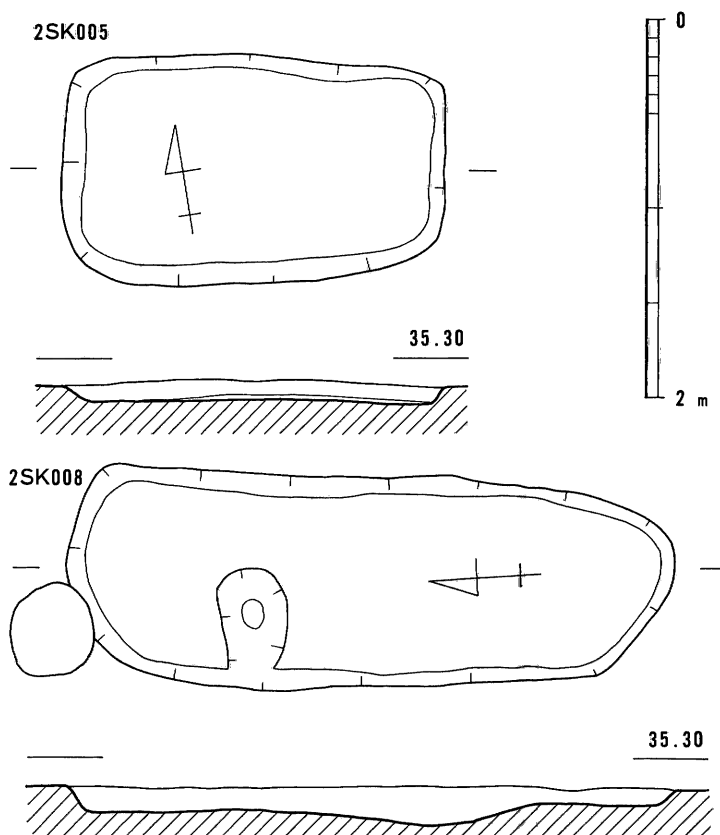
出土遺物（第8図）

21は土師器甕の頸部下の破片である。肩部にやや太めの刷毛目が認められる。内部は頸部屈曲付近まで丁寧なへら削りが施される。色調は外面がにぶい黄橙色、内面が灰黄褐色を呈す。器壁はかなり薄く仕上げられている。

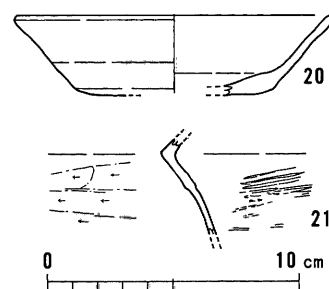
4. 溝

(1) 2SD001（第9図）

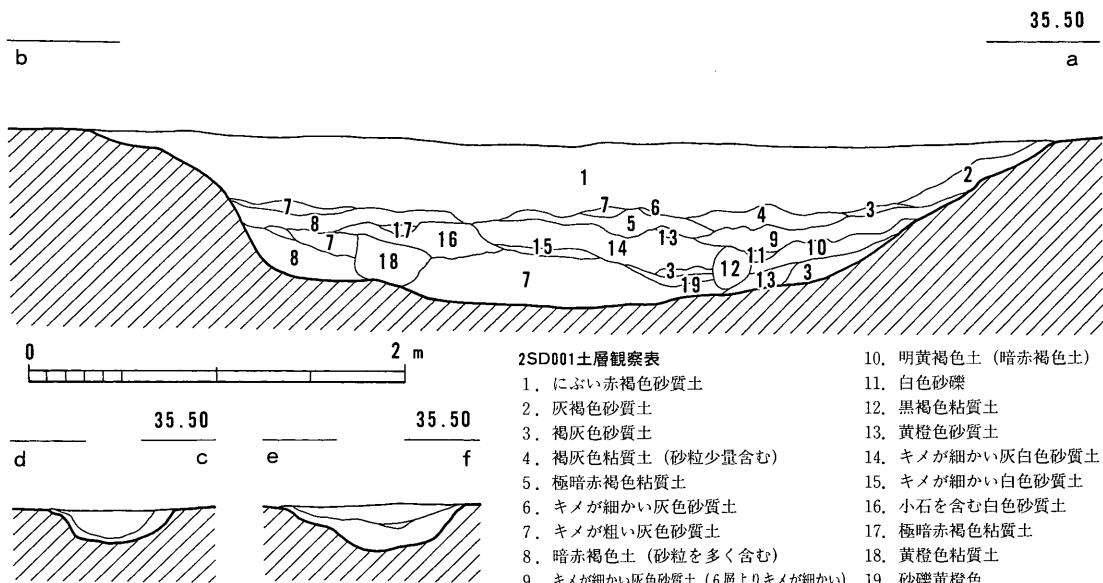
調査区の南西隅を蛇行して進む溝で、1次調査のSD011に続く



第7図 2SK実測図（縮尺1/40）



第8図 SK出土
実測図（縮尺1/3）



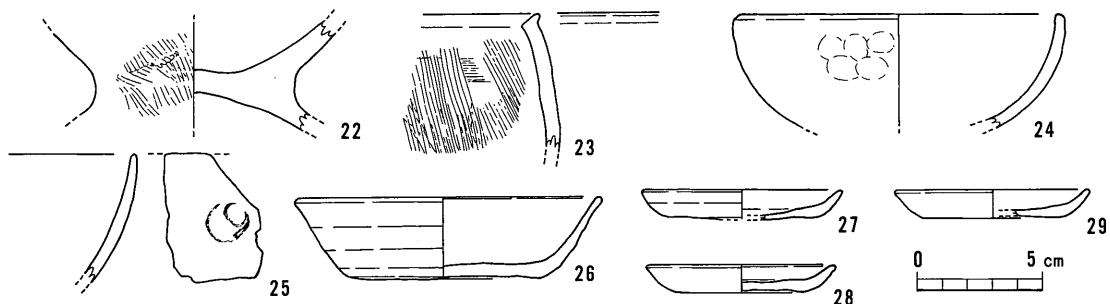
第9図 2SD001・002断面図 (縮尺1/40)

ものである。深さは90cmほどであるが、幅は5 m前後と広い。断面は皿状を呈し、砂を中心に粘質土が所々に挟まれた土層を呈す。

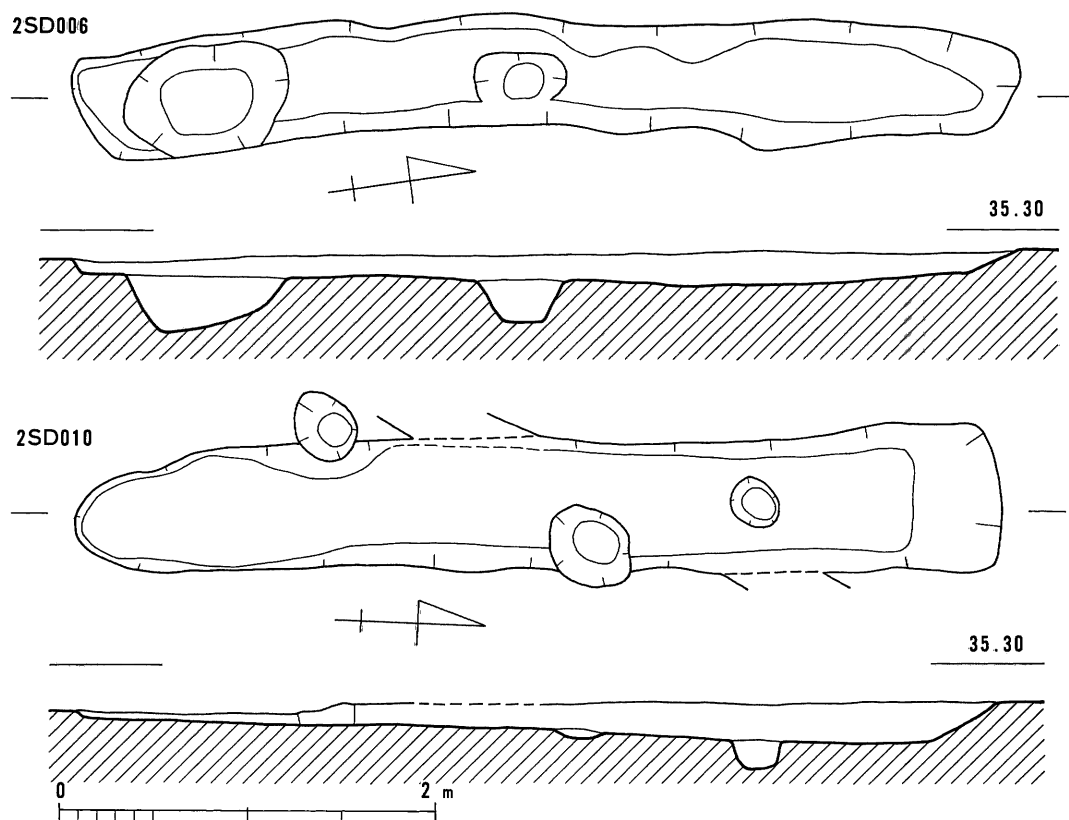
出土遺物 (第10図 図版3・4)

22は中層から出土した脚台部の破片である。器種は明確にしえない。内面は板状工具によるナデが施される。外面は刷毛目調整される。23も中層から出土した無頸壺と思われる小片で、胴部がもう少し張るかもしれない。内外面ともに刷毛目調整されるが、外面は磨滅のためほとんど観察できない。24は土師器の鉢で、中層でもやや低い位置から出土した。口縁部から体部までの1/3が残る。復元口径13.2cm、残存高4.55cmを測る。体部上位には指頭痕が多く見られる。25も中層下位から出土した土師器碗の口縁部の小片である。器面は磨滅しているが、口縁下に二重丸状の墨書が残る。26は上層から出土した土師器坏aで、1/2ほどを欠失する。復元口径は12.3cm、器高7.7cm、復元底径3.25cmを測る。直線的に外傾する体部と底部の境はあまく屈曲する。底部は糸切り離しされ、板状圧痕が残る。色調はにふい黄橙色を呈す。27～29は小皿aでいずれも上層からの出土である。27は1/3ほどが残り、復元口径8.0cm、器高1.2cm、復元底径6.5cmを測る。28は底部の一部と体部の半分ほどを欠失する。復元口径7.6cm、器高1.1cm、復元底径5.0cmを測る。29は全体の半分ほどを欠失する。復元口径7.8cm、器高1.1cm、復元底径5.6cmを測る。底部は3個体とも糸切り離しで、27、28には板状圧痕が残る。

以上のほかにも多量の破片が出土するが、弥生時代後期のものから土師器の坏・皿に至るものが中心である。土師器の坏・皿の底部は少ないが、すべてヘラ切り離しのものである。



第10図 2SD001出土遺物実測図 (縮尺1/3)



第11図 2SD006・010断面図（縮尺 1/40）

(2) 2SD002（第9図 図版2-3）

調査区を縦断する溝で、2SD001を切る。調査区北側で $N-3^{\circ}-W$ に主軸を取った後、南側で緩やかに西にカーブする。床面は浅く、断面「U」字状を呈する。

出土遺物

破片のものしか出土していない。弥生時代のものが比較的多いが、須恵器、土師器、また瓦質土器や土師質土器もみられる。

(3) 2SD006（第11図）

$N-3^{\circ}-W$ に方位をとり、長さ4.9m、幅60cmを確認した。床面は北端が最も深く20cmを測り、南側に向けて徐々に浅くなる。

出土遺物

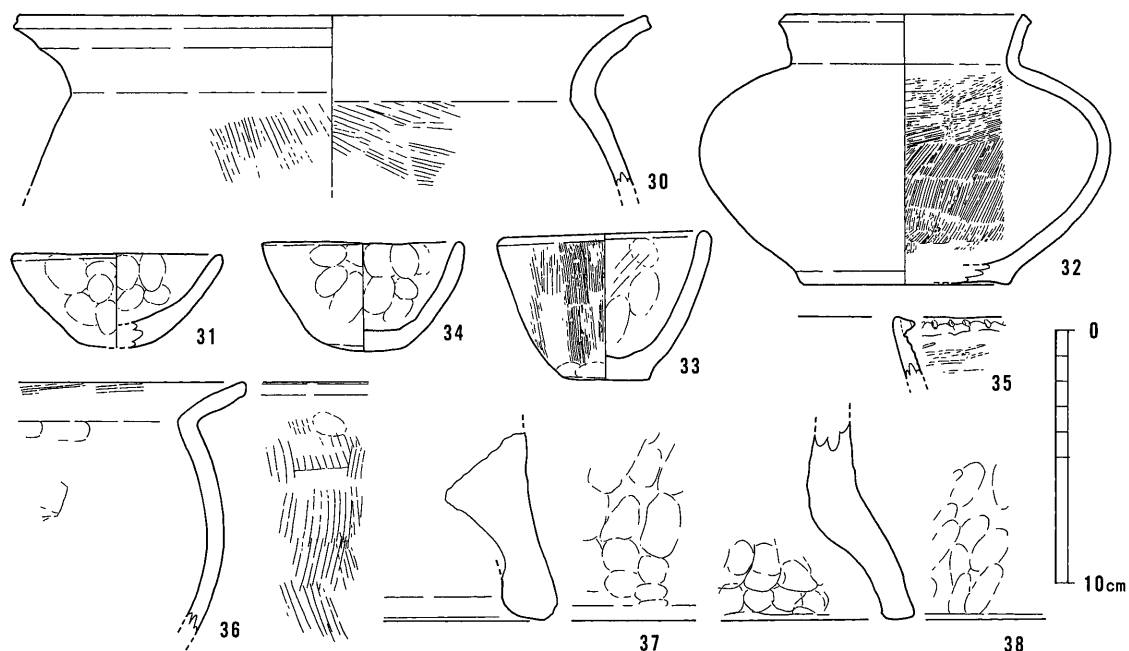
弥生時代の破片が出土している。概ね3cm角以下ものが2点、3cm以上8cm角以下のものが65点、それ以上の大きさの破片が1点出土する。

(4) 2SD010（第11図）

$N-8^{\circ}-E$ に方位をとり、長さ5m余り、幅60cm前後を測る。床面は北側2/3ほどのところが最も深く20cmを測り、両端に向けて徐々に浅くなる。両端部は北側で10cm、南側で5cmを測る。

5. ピット

調査においてピットは300余りを検出した。そのうち2P044は径45～50cm、深さ30cm余りの小ピットであるが32～34の遺物が出土している。



第12図 ピット出土遺物実測図（縮尺 1 / 3）

出土遺物（第12図 図版 4）

30は2P161から出土した弥生式土器の甕である。口頸部の 1 / 4 ほどの破片で、復元口径は25.4 cm、残存高6.8cmを測る。31は2P024出土の手捏ねの鉢で、口縁部の 1 / 5 ほどと所々を欠失する。口径8.5cm、残存高3.75cmを測る。32～34は2P044から出土した。32は弥生式土器の小壺で 1 / 3 ほどが残る。復元口径10.1cm、器高10.7cm、復元胴部最大径16.4cm、復元底径8.3cmを測る。口縁部はやや外傾し、端部は平坦に収まる。胴部は中位上方で強く張り、比較的広い底部に至る。胴部と底部の境、底部外縁にあまい段を有す。胴部外面はかなり荒れ、調整は明瞭でないが、かなり丁寧な作りであったようである。胴部内面は細かい刷毛目が施され、さらに所々に軽いヨコナデがみられる。口縁部は内外面ともヨコナデで仕上げられる。33は完形の鉢である。口径8.6cm、器高5.95 cm、底径3.5cmを測る。調整は、外面が縦方向に刷毛目が施され、内面は下半が横方向、上半が斜方向の刷毛目が施された後、ナデで仕上げられる。34は完形の手捏ねの鉢である。指頭痕が観察されるが、その痕を綺麗にナデ消す丁寧な作りである。35は2P142から出土した夜臼式土器の破片である。36は2P158出土の土師器甕の破片である。胴部外面は粗い刷毛目が施され、内面はケズリが施されるが、いわゆる板ナデ状になっている。37も2P158から出土した。器種は不明である。一見、支脚のようでもあるが、底部が上げ底状になる可能性がある。外面は指頭痕が観察されるが、ナデにより消され綺麗な器面を作り出している。器面には金雲母の微細粒が多く観察される。38は30と同じく2P161上層から出土した。37と感覚的には似ているが、器面の雲母等はみられない。脚裾部が弧状に広がるもので、器種は不明である。器面はナデにより調整される。

IV. ま と め

2SI003の土壌上面に放棄された土器のうち 2・3 は在地形の甕で、底部は尖底に近い丸底で、胴部最大径は胴部上位に位置する。いわゆる西新式に収まるものである。1 は底部がやや尖り気味で、

重心位置が高い球状の形態を呈し、内面にはへう削りが行われている。一方外面にはタタキで成形し、その痕を刷毛目で消す在地的な手法も見られる。4は球形の胴部に小さい平底をもつ甕で、畿内のV様式の影響を引く土器である。これらの土器群は4がやや古い傾向を示すが、庄内式土器平行期のものと考えたい。

2ST004から出土した19は大宰府IX期^{註1}のものである。また18の黒色土器B類は押出しにより底部は丸く、高台は低い。中島氏分類^{註2}の椀Ⅲ-3類に収まると思われ、19とも時期の整合性はとれる。2SD001から出土した26~29は西側の上層で出土している。坏a、小皿aともに大宰府XIX期のものであり、破片を含めた外の遺物とは時期差がある。このことから、前述の遺物は2SD001に切り込んだ外の遺構に伴うものの可能性がある。

今回の発掘調査は1次調査^{註3}に続いて、その北隣の発掘調査を実施した。さらに北側100m余りの地点も共同住宅建築に伴い900㎡を大宰府条坊跡第85次調査^{註4}（以下「条85」と呼び、遺構番号の頭にも冠す。）として発掘調査している。この地域はJR二日市駅の裏側にあり、昔からの道が二日市温泉街に向かい、その両側に建物が並んでいた。発掘調査を行うといずれも削平が著しく、遺構の残りは悪い。しかし、僅かながら遺跡の様相が窺えてきた。条85では3軒の竪穴式住居跡が検出され、うち条85SI005は布留式土器が出土している。1次調査でも1軒の竪穴式住居跡が検出されるが、削平が著しく遺物の出土を見なかった。しかし、6基の土壇から布留式土器、もしくは、その時期に近い遺物が出土する。ただし、1SK004はやや古い様相、1SK007は若干新しい様相がみられる。2SI003の屋内土壇上から出土した土器は庄内式土器並行期としたが、これも投棄された土器であり、住居跡の年代は若干昇ると思われる。まだ整理中ではあるが、堀池遺跡の北端部に当たると思われる条189からは弥生時代終末期の土器が土壇に多量に投棄されていた。堀池遺跡についてはその一部しか調査が進んでいないが、これらの状況から条85SI002出土の壺にみられるような弥生時代後期から集落が営み始められ、布留式土器古段階（0~1式）頃に最盛期を迎えたと思われるが、これに連続すると思われる遺物は発見されていない。

一方、古代以降についてはどうだろうか。時期を確定できる遺構は大宰府IX期の2ST004のみである。1次調査においては、この時期の遺物もほとんど出土していない。しかし、遺構としては、比較的しっかりした掘立柱建物が3棟確認されている。条85では攪乱が著しいものの、ピット列が認められた。しかし、三調査区で検出された溝のつながりもまだ掘めておらず、掘立柱建物の時期も明確ではない。まだ、古代から中世初期に関しては不透明な部分が多い。

註

註1 古代、中世の土師器の器種については『太宰府市教育委員会 1983 大宰府条坊跡Ⅱ 太宰府市の文化財第7集』に拠り、時期区分については、『山本信夫 1990 統計上の土器—歴史時代の研究に寄せて—』が、大宰府の編年観として使用されていることから、この時期区分を用い大宰府○期と表示した。

註2 中島恒次郎 1992 大宰府における椀形態の変遷 中世土器の基礎研究Ⅷ

註3 筑紫野市教育委員会 1997 堀池遺跡 筑紫野市文化財調査報告書第47集

註4 筑紫野市教育委員会 1991 大宰府条坊跡第85次発掘調査 筑紫野市文化財調査報告第28集

図 版



(1) 調査区西側全景（上空より）



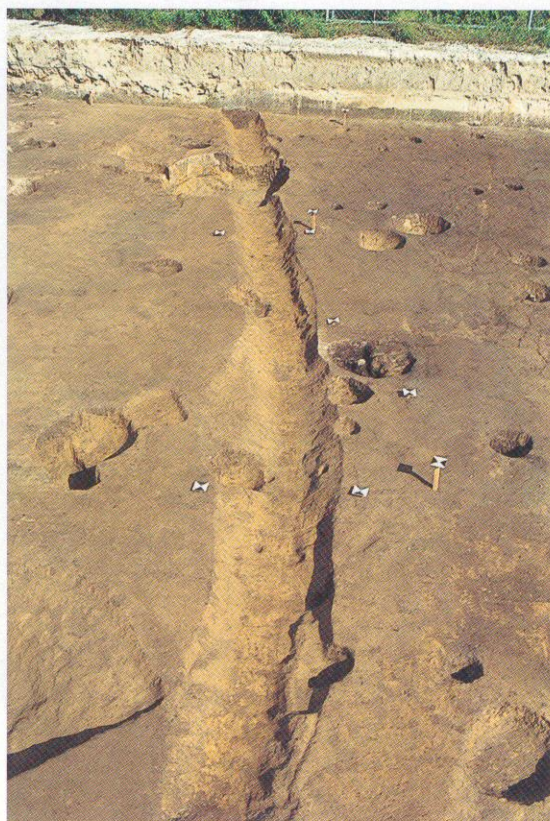
(2) 調査区東側全景（上空より）



(1) 2SI003



(2) 2ST004



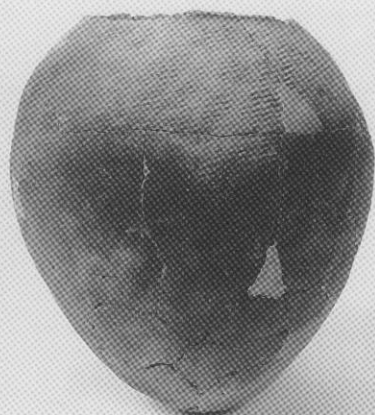
(3) 2SD002



1



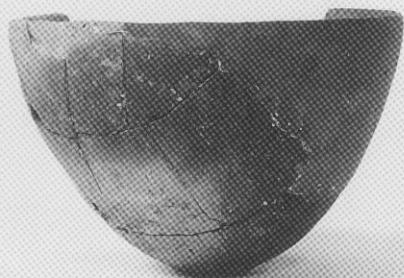
2



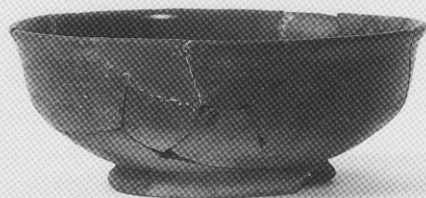
3



4



15



18



19



26



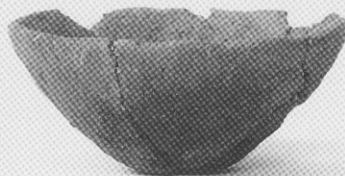
27



28



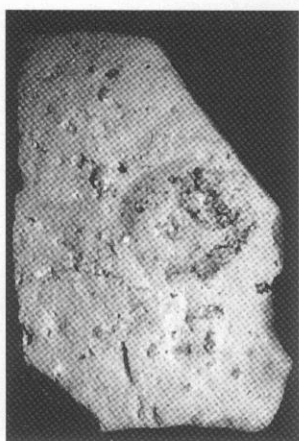
29



31



25赤外線写真（実大）



25赤外線写真（×2）



報 告 書 抄 録

ふ り が な	ほりいけいせき							
書 名	堀池遺跡Ⅱ							
副 書 名								
巻 次								
シ リ ー ズ 名	筑紫野市文化財調査報告書							
シ リ ー ズ 番 号	第72集							
編 集 者 名	奥 村 俊 久							
編 集 機 関	筑紫野市教育委員会（教育部 文化課 文化財担当）							
所 在 地	〒818-8686 筑紫野市大字二日市西1-1-1 TEL 092-923-1111(代)							
発 行 年 月 日	平成14年 1 月31日							
ふ り が な 所収遺跡名	ふ り が な 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市 町 村	遺跡番号					
ほりいけいせき 堀池遺跡	ちくしのし 筑紫野市 ふつかいち 二日市	402176	170352	33° 29' 28"	130° 31' 11"	901016 、 901220	1,225 m²	共同住宅 建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
堀池遺跡	集落 墓地	弥生時代 平安時代	住居跡 墳墓	弥生土器 土師器				

堀池遺跡Ⅱ

筑紫野市文化財調査報告書

第72集

平成14年1月31日

発行 筑紫野市教育委員会

〒818-8686 福岡県筑紫野市大字二日市西1-1-1

TEL 092-923-1111(代)

FAX 092-923-9644

印刷 大同印刷株式会社

〒840-0815 佐賀市天神一丁目1番32号

TEL 0952-24-8450(代)

FAX 0952-28-5583

URL <http://www.daidou-jp.com>.



付図 堀池遺跡第1次・第2次発掘調査遺構配置図（縮尺1/200）